



「まなづくる」とは真鶴のまちづくりを進めるという意味の造語です。
この新聞は小林伸行本人が執筆し、Word で手作りしています。

真鶴は今、動き出しています。

2023 年 11 月の町長就任から一年半が経ちました。

振り返れば、積み残しになってきた課題を、無我夢中で片付けてきた日々でした。

「私たちが選んだ町長の仕事ぶりはどうか？」と気になっている方も多いでしょう。

町政の状況については、お約束どおり3カ月毎にご報告してきました。ただし、報告会にはなかなか足を運べない方も多いと思います。そこで、この間の動きを新聞にまとめました。だいぶ間が空いてしまい申し訳ありませんが、一軒ずつお届けして回りますのでお目通し頂ければ幸いです。

「止まっていた真鶴がようやく動き出した」。そんな感想もあちこちから頂いています。もちろん、動き出して変わっていくことには、戸惑いも多いでしょう。ときには上手くいかないこともあるでしょう。それでも、真鶴が真鶴らしくあるためには(合併して全く別の姿の町になってしまわないようにするには)、前に進まなければなりません。

真鶴の未来は、言われるほど暗くはありません。打ち手はあります。

一緒に、前を向いて進みませんか。



こばやし のぶゆき

真鶴町長 小林伸行

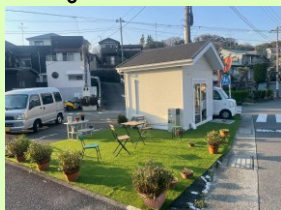
ひとりごと

ところで「今の町長は何を考えているかわからない」「なんか人の心が無いサイボーグみたい」など、いろいろな言われているようです。むしろ、友人からは、真っすぐすぎて不器用なほうと言われるので意外でした。黒船襲来みたいに思われているのでしょうか？ 中身はロック音楽とビールが好きな普通のオッサンなのですが。

なお、実は離婚二回(いわゆるバツ2)です。表向きは「横須賀から単身赴任」と言っていました。息子らと暮らしてはいても戸籍上は単身でした。別に隠していたわけではないのですが、説明が複雑になるのでオブラートに包んですみません。息子も成人して身軽になるタイミングに、真鶴で新しい人生に挑戦したというのが正直なところです。というわけで、完璧な人間ではありませんが、一応は行政経営の勉強も実践もしましたので、上手く使ってやって頂ければと思います。

ちなみに中古の家を購入したので、いま住んでいる駅北のアパートメントから、この夏に引っ越す予定です。家の値段以上のリフォーム代がかかりました。移住したいけど丁度いい物件がないと言われる真鶴の現実を自ら味わっています。十五年間のリフォーム・ローンも組んでしまったので、腰を据えてやっていくつもりです。

あと、噂になってる小田百前の土地は汚かったので個人で借りて綺麗にしてみました。ただで店舗を何に使うか迷い中です。



公約「すぐやる5大事業」はどうなったの？

選挙の際に、町民のみなさまに公約した5つの事業。正直に言って、進んでいるものもあれば、手がついていないものもあります。その進捗と理由を、包み隠さずご説明いたします。

水道代については、2024年度には時限的に国の交付金を活用して基本料金30%減免とし、値下げできました。しかし、恒久的な値下げは実現していません。申し訳ありません。

一方でこの間、物価高騰に伴って水道事業の経費は増大しています。悩ましい状況です。見通しが甘いとのことご批判は真摯に受け止めます。

「最低でも基本料金は値下げ」との公約は死守します。ただし、水道料金全体としては値上げを避けられない状況です。2026年度からの料金改定を予定しています。

小林のぶゆきの すぐやる5大事業

1. 水道代を値下げします！



県内一高い水道代に、いよいよメスを入れます。

★ 湯河原町との契約見直し、大猿山系統の活用、県営水道との連携、料金体系の見直し……。

★ 手を尽くして、最低でも基本料金は値下げします。

政策は基本的に町民の声を聞いて進めます。でも、この5つの事業は、つべこべ言わずに任期四年間の間に一日も早くやり遂げます。

2025年4月の組織変更案が議会で否決となり、足踏みしていました。

このたび、担当部署となる都市計画課を2025年8月に立ち上げることを議会で承認頂き、現在、鋭意準備中です。

まずはワゴン型の車両を導入して路線を拡充し、その後に無料化の方法を模索します。

2. 無料バスを走らせます！



ヨーロッパでは、住民が歩いて暮らせるよう、行政が公共交通を手掛けるのが当たり前です。とりわけ、生活に必須となる真鶴駅～小田原百貨店～国民健康保険診療所には、町内の各地から気軽に出られる無料バスを走らせます。観光・周遊にもつながります。

2026年6月頃に導入の予定で準備しています。

場所は、情報センター真鶴となります。

3. 役場にワンストップ窓口をつくります！

役場に入ったら、まず受付があって、経験豊富な職員がどんな要件にも対応します。どんな要件も一つの窓口で済むようにし、必要なら担当職員が窓口の下りてくるようにします。プライバシー保護の観点から、銀行のように個室も設けます。



4. 中学校給食を早期導入します！

実は私は、横須賀市で中学校給食を導入した仕掛け人です。自校方式やセンター方式、ボックスランチ方式など様々な手法がありますが、小学校から中学校へ運ぶ「親子方式」を軸に、2年以内に導入します。



5. 地域商品券で町内経済を回します！

真鶴町民のお金が多量に流出している限り、まちは衰退する一方です。真鶴のお金は、真鶴で活かす。地域商品券を発行し、経済をぐるぐる回していきます。



本件については、予想に反して教育長の協力が得られませんでした。（法律上、教育分野は私が直接指示することができない仕組みとなっています。）

なお、前町長時代に選ばれた教育長ですから、私の方針と異なっても彼が悪いわけではありません。考えが違うだけです。

2025年11月の任期満了後に新しい教育長を選任し、導入に向けて動きます。

導入には国の補助金獲得が必要ですが、組織変更案が議会で否決されて想定が狂ってしまったこともあり、遅れています。これから、巻き返していきます。

基本的には一過性のプレミアム商品券ではなく、常設型の地域通貨を想定しています。既存の支払いを日本円から地域通貨に振り替えることで、新たな財源を投じることなく普段から真鶴のお金を真鶴で回していきます。

一年半の実績を、お伝えします。

政治家は普通、「私があれを作りました!」「こんな制度を始めました!」と手柄を誇りたいものです。しかしあまりにも財源や職員に余裕がなく、なかなか新しい町民サービスを提供できていません。正直、悔しい所です。一方で、これまで課題とされながらも手がつかなかった案件に、先送りせず次々と手を打ってきました。ムリやムダに斬り込んで、町民サービスのための財源を生み出すことも一種の実績」と信じてご報告します。

お林展望公園



一般公園化して赤字削減

年間約700万円の赤字だったパークゴルフ事業を廃止し、お林展望公園を一般公園に戻しました。ただし真鶴町パークゴルフクラブによる自主事業として、東側半分は無料のパークゴルフ場の形で、当面は継続となりました。費用をかけずにパークゴルフも公園も両立し感謝です。

高所放水車



売却して活用へ

お林展望公園駐車場にあった、某芸能事務所より2009年に寄贈された消防車(高所放水車)は、芸能事務所の了解も得たうえで売却しました。2013年に車検切れとなつて以降十二年もの間一度も稼働していなかったためです。海外で有効活用の方角性とのこと。車庫の用途は模索中です。

小さな人だまり



屋外にイスとテーブルを設置

高齢者をはじめ町民のみながすが気軽に足を休めることができるよう、私が陣頭指揮して情報センター、町民センター、城北スクエア(旧保健センター)に屋外用テーブルと椅子を設置しました。美の基準「小さな人だまり」に沿った取り組みでもあり、ご利用頂いている方の姿を目にすると、私もうれしくなります。

旧 民俗資料館(旧本屋敷)



民間活用による存続を模索中

「文化的な価値が高い」と言われた歴史的建造物が、雨漏りしたまま放置されていたことに驚き、すぐに対応を指示しました。民俗資料館としてはいったん廃止し、貴重な史料を安全な場所に運び出し、応急修繕をしました。

今後は、民間活力をお借りしながら将来に遺していく方策を模索中です。

情報センター

みんなの居場所として大人気



ワクチン接種会場としての利用が終わった後も町民に開放されていなかったため、町民利用を再開するとともに、居場所機能を強化しました。

私が陣頭指揮して、乳幼児用スペースをつくり、本を並べ、居心地のいい椅子とテーブルを置き、寄付したハンモックを設置したところ、大人も子どもも集まる居場所となりました。

中川一政美術館



休館して活用を模索中

かつて来館者8万5千人が今や5千人以下。毎年約2千万円の赤字。4月から一時休館としました。名称や用途の変更を含めた新たな活用法を模索し、町の負担を抑えた形での開館を検討中です。

道無海岸町有地

売却して町の負担ゼロへ

土砂崩れのたびに補修費用がかかっていた道無海岸専用の町道。町道ごと町有地を売却することで8千万円弱の収入となりました。今後は補修費用が浮くだけでなく固定資産税も毎年入ってきます。

コミュニティ真鶴



町民活動を支援する拠点へ

廃止されて町民の自主管理により運営頂いていた旧コミュニティ真鶴ですが、維持管理に投資がされず徐々に痛んでいました。そこで、2024年10月より復活させ、町民活動支援拠点として再始動しました。何でも気軽に相談してみてください。

貸館・会議室等

1時間単位で借りられるように

町民センター、情報センター、岩ふれあい館を1時間単位の貸出に改善しました。必要な人が必要なだけ安価に使えるので、より多くの方に活用頂けるようになりました。

くらしかる真鶴



シャッターを開けて若者の居場所へ

大道通りに面した土間部分は、シャッターが閉まったままで周囲に悪影響を与えていました。壊れたシャッターと引戸はお金をかけずに私が修理し、若者の居場所として活用を始めました。地域に子どもや若者の声が響くまちは、きっと元気な町です。

その他



●総合計画策定: 未来像を計画に落とし込み。

●助産院の誘致: 私が誘致を決断。町費はゼロ。

●副町長の選任: 3年半も不在だった副町長を選任し町政が正常化。しかも、とびきり有能な方。

●真鶴港の運営: 町政の正常化により再び町が指定管理者として県から真鶴港を任せられました。

●公共施設ペットボトル販売禁止: プラごみとCO2削減の観点で自販機からペットボトルを全廃しました。

●情報公開と住民協働: 「真鶴オープンデータ図書館」と「真鶴データブック2023」を公開。開かれたオープン・ガバメント型の町政を進めます。

●外部人材の獲得: 事務執行体制の立て直しのため、民間人材を十四名招いて活躍頂いています。町負担のない総務省の「地域活性化起業人」制度を活用したもので、これまでの人脈が活きました。

●パラ卓球対応の卓球台導入: 障害者も利用し易いパラリンピックでも使われているユニバーサル卓球台4台や練習用マシン、競技用車いすの寄贈を受け町立体育館に配備しました。旧知の専門家が話をつないで下さりました。



仕事の見える化！進めています。

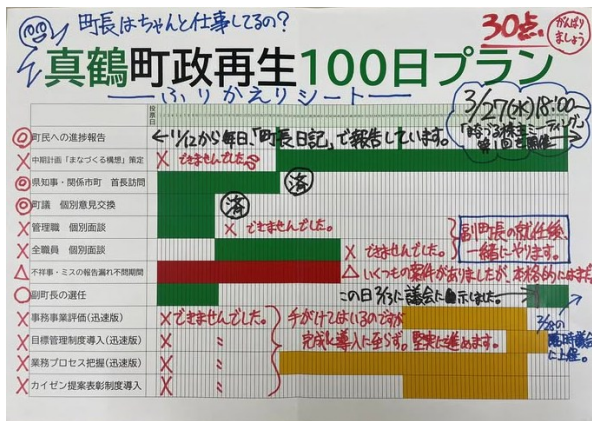
「私たちが選んだ町長は、ちゃんと仕事してくれているの？」と気になる方も多いと思います。

自分で言うのもなんですが、全国に約1700人いる市町村長の中でも住民に対して仕事の「見える化」をしているほうだと思います。

こんな方法で定期的に町民のみなさまに進捗報告してきました。

●町政再生100日プランの「通信簿」

選挙前に「当選したら最初の100日間でこれをやります！」と宣言した町政再生100日プラン。自己評価ではありますが、きちんと振り返りをして「通信簿」を作成しました。実際には3割しかできず「赤点ギリギリ」でしたが、包み隠さず町民と職員にご報告しました。



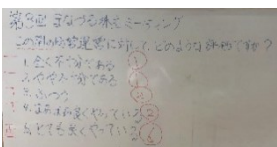
●#町長日記

2023年11月12日の就任当日から、毎日の動きを日記としてFacebookとXにてご報告してきました。ただし、振り返りよりも町を前に進めることに集中したいと考え、555日目となる5月19日を以って一区切りとしました。なお、日記ではありませんが、随時、SNSで様々な発信を続けています。



●まなづる株主ミーティング

町の「株主」である町民のみなさまに、3カ月に一回の四半期報告として町の経営状況をご説明する場です。お約束どおり、これまでに7回開催してきました。質疑応答の後に5段階評価の投票をして頂いています。みなさんも、「全く不十分」「よくやっている」など点数をつけに来て下さい。



●町長室開放日

3カ月に一度、町長室のドアを開けておき、どなたでも相談や提案などにお越し頂ける日です。これまでに8回開催してきました。

小学生からの「町立体育館に冷水器を置いてほしい」との要望を実現するなど、可能なものから迅速に対応しています。

真鶴を前に進める方を議会へ。

9月には町議選があります。町の最終決定者は、町長ではなく、町民代表の議会です。

「私の出す議案に何でも賛成してくれる人を選んでほしい」ではありません。ただし、「よくわからないから反対」とか「選挙が近いから負担増には反対」といった態度の議員さんは、町民のみなさまのためにならないと思います。

よくわからないなら、町民にもわかりやすく議論して「何が現時点で最善か」を明らかにするのが議員さんの仕事ではないでしょうか。「役場の提案には問題点がある」とお考えならば、修正案を出すことだってできます。

そして、選挙の当落ばかりを気にして負担増を先送りしてきた結果、こんなにボロボロの水道管や公共施設が放置されてきたのではないのでしょうか？

「いいものはいい。悪いものは悪い。」と是々非々で臨む。

真鶴の未来を真剣に考えて、建設的な議論をする。

そんな方を、議会に送り出して頂けませんか。



こばやし のぶゆき 小林伸行の略歴

福島県鏡石町出身。昭和50年生まれ。49歳。筑波大学を卒業後、地域情報誌と環境コンサルティングに携わるが、地域の疲弊と日本の将来を憂い、政治を志す。国会議員政策秘書試験合格、衆議院議員公設秘書を経て、2011年より横須賀市議会議員を4期13年務める。

2022年には早稲田大学大学院を修了（公共経営修士・MPA）。片山善博元総務大臣・元鳥取県知事の下、広域連携を研究し、真鶴の課題に気付く。副町長の公募に応募するも中止となり、リコール成立を受けて町政への挑戦を決意。2023年11月12日より真鶴町長。



2024年7月2日には神奈川大学で授業を受け持ちました。これがきっかけでインターンも受入れ。未来の役場職員への投資です。



わりと自炊するほうです。



7月1日の神奈川新聞で県内首長の2024年分の所得が報じられました。県内市町村長は、平均2198万円の中、真鶴町の私だけ797万円とダントツに低い状況です。私は好きでやっているからいいのですが、優秀な人を将来いつか町長に招くにはいずれ報酬を見直したほうがいいようにも思います。

※神奈川新聞調べ。単位は万円。1万円未満は四捨五入。昨年に当選したばかりの小田原市長や湯河原町長らは含まず。報酬以外も含めた所得であることに留意。

順位	氏名	自治体名	所得計
1	桐ヶ谷寛	逗子市	16,188
2	黒岩祐治	神奈川県	3,810
3	吉田英男	三浦市	3,327
4	山梨崇仁	葉山町	2,640
5	山中竹春	横浜市	2,606
6	落合克宏	平塚市	2,276
7	福田紀彦	川崎市	2,140
8	鈴木恒夫	藤沢市	2,070
9	湯川裕司	山北町	1,963
10	本村賢太郎	相模原市	1,944
11	山口貴裕	厚木市	1,828
12	高橋昌和	秦野市	1,765
13	上地克明	横須賀市	1,724
14	内野優	海老名市	1,654
15	古谷田力	大和市	1,604
16	佐藤弥斗	座間市	1,600
17	加藤修平	南足柄市	1,592
18	松尾崇	鎌倉市	1,549
19	木村俊雄	寒川町	1,495
20	佐藤光	茅ヶ崎市	1,494
21	池田東一郎	大磯町	1,426
22	小野澤豊	愛川町	1,408
23	山神裕	開成町	1,380
24	岩澤吉美	清川村	1,318
25	勝俣浩行	箱根町	1,307
26	戸村裕司	中井町	1,208
27	小田真一	大井町	1,175
28	村田邦子	二宮町	1,172
29	本山博幸	松田町	1,088
30	小林伸行	真鶴町	797